

授業改善のヒント 中学2年 社会

1 県全体の状況

(1) 正答率60%以上の問題の割合 36.4% (平成17年度 50.0%)

問題数	正答率60%以上		正答率40%以上60%未満		正答率40%未満	
33問中	12問	36.4%	17問	51.5%	4問	12.1%

(2) 観点別正答率

No	観点別正答率	正答率
1	社会的な思考・判断	57.4%
2	資料活用の技能・表現	56.9%
3	社会的事象についての知識・理解	55.3%

(3) 問題内容別正答率

No	問題内容別正答率	正答率	No	問題内容別正答率	正答率
1	世界の国々の構成と地域区分	62.3%	6	古代までの日本	64.0%
2	日本の国土と地域構成	49.6%	7	中世の日本	53.1%
3	地形図の見方	50.0%	8	近世の日本	54.9%
4	都道府県	52.3%	9	地歴融合問題	52.9%
5	世界の国々	60.3%			

2 定着が良好な領域や単元等

(1) 地理的分野：「世界の国々の構成と地域区分」では、地図上の大陸と大洋の名称の正答率が68.7%，時差を求める問題が71.0%，「都道府県」では、資料を基に設定された課題への活用を考える問題が70.9%となっている。① (1) (3) ④ (2)

(2) 歴史的分野：「古代までの日本」では、古代政治の展開の特色についての正答率が79.3%，平安時代の代表的な文化財が80.6%，「近世の日本」では資料を基に鎖国の目的を読み取る問題の正答率が86.8%，となっている。⑥ (2) ⑦ (2) ⑨ (4)

3 指導法の工夫改善が必要な領域や単元等

(1) 地理的分野

- ① 緯度と経度を用いて地球上の位置を表す問題の正答率は50.5%である。「地域の規模に応じた調査」における繰り返しの指導が、今後の工夫改善のポイントとなる。① (2)
- ② 都道府県の位置と名称の正答率は40.2%，51.9%である。小学校との関連も踏まえた作業学習の充実が必要である。② (2) (3)
- ③ 地形図の縮尺の理解を基に、実際の距離を計算する問題の正答率は24.6%である。③ (2)
- ④ 資料から複数の県の情報を読み取る問題の正答率は45.5%，40.6%である。また、④ (3)の無答率は33.3%であり、論述式の問題に対する抵抗感がうかがえる。④ (1) (3)
- ⑤ 複数の資料から資源の産地と産業の関係を読み取る問題の正答率は54.5%である。⑤ (1)

(2) 歴史的分野

- ① 資料を基に藤原氏の摂関政治を読み取る問題の正答率は50.9%，平安時代の文化の特色を考える問題の正答率は39.8%である。⑥ (4) ⑦ (1)
- ② 元寇前後の国内の動きや対外関係についての理解を問う問題の正答率は45.4%，応仁の乱後の社会の変動についての理解を問う問題の正答率は50.9%である。また、資料を基に中世社会の特色を読み取る問題の正答率は44.9%，鎌倉時代の文化についての理解を問う問題の正答率は31.3%である。⑧ (1) (2) (3) ⑩ (4)
- ③ 江戸時代の参勤交代制度のねらいについての理解を問う問題の正答率は54.5%，ヨーロッパ人の来航と鉄砲の伝来による影響を問う問題の正答率は22.6%である。単元のまとめでは時代の特色や変化について文章で整理するなど、「書くこと」を取り入れた指導が求められる。⑨ (2) (3)

地理的分野1 調べ学習・作業学習で地球上の位置の表し方を身に付けさせましょう。

1 問題の概要

1	(2) 緯度と経度を用いて、地球上の位置を表すことができる。	正答率50.5%
---	--------------------------------	----------

2 正答率が低い要因

- (1) 身近な生活と関連付けたり、白地図を使ったり地図帳で確認する学習が少ないため、地球上の位置の表現で緯度・経度を活用することが難しいと考えられます。
- (2) 本初子午線を境とする東経・西経、赤道を境とする北緯・南緯を混同していることや地図上の経線15°ごとに1時間の時差があることをとらえていないと考えられます。

3 指導法改善のヒント

- (1) 緯度・経度を身近な生活と関連付けましょう。
学校所在地の緯度・経度、その緯度や経度に近い県内や国内、世界の主な都市を地図帳で調べさせることで、位置の表し方や緯度・経度がもつ意味について理解させましょう。
- (2) 作業的な学習を取り入れましょう。
緯線・経線のみを入れた世界地図を準備し、生徒が任意の地点の緯度や経度を出題し合うなどの学習活動により、地球上の位置の表し方についての定着を図る指導が必要です。

地理的分野2 繰り返しの学習で都道府県の位置と名称を身に付けさせましょう。

1 問題の概要

2	(2) 都道府県の位置と名称の知識がある。	正答率40.2%
2	(3) 条件に一致する都道府県の位置と名称を考察することができる。	正答率51.9%

2 正答率が低い要因

- (1) 地域区分を基にした白地図を活用するなどの作業学習に取り組んでいないため、都道府県の位置と名称に関する理解が定着していないと考えられます。
- (2) 「都道府県の位置と名称」について、次単元以降で継続的な学習がないため、その後の定着が難しいと考えられます。

3 指導法改善のヒント

- (1) 学習環境を整備し、生徒の興味・関心を高めさせましょう。
教室や廊下に日本全図を掲示し、生徒が日常的に位置と名称を確認できる環境をつくりましょう。ニュースで取り上げられた都道府県を紹介するコーナーを設けることなども効果的です。
- (2) 繰り返しの指導を継続しましょう。
地理的分野の基本は「空間認識」の育成です。縮小版の日本全図をノートに貼らせたり、他の分野の授業でも地図帳を活用したり、定期考査に地域区分のまとめりで出題するなど、意図的に都道府県の位置と名称を定着させるよう指導しましょう。
- (3) 小学校における定着状況を把握しましょう。
小学校の学習内容との関連を図り、単元の指導前に定着状況を把握しましょう。

地理的分野3 野外調査を基に、距離換算の問題づくりに習熟させましょう。

1 問題の概要

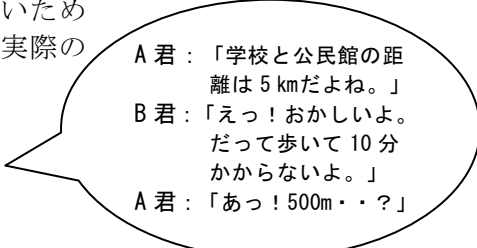
3	(2) 地形図の縮尺の意味を理解し、実際の距離を計算することができる。	正答率24.6%
---	-------------------------------------	----------

2 正答率が低い要因

- (1) 縮尺の意味や距離換算の仕方が理解されていないと考えられます。
- (2) 校区を対象とした野外調査が不足し、大縮尺の地形図を活用する機会が少ないようです。このため、日常生活とかかわらせて地図上の距離を考える経験が少ないと考えられます。
- (3) 大縮尺の地形図を活用した問題への習熟の度合いが低い。単位の換算ミスなどに生徒自身が気付くことが難しく、実際の距離の求め方が定着していないと考えられます。

3 指導法改善のヒント

- (1) 「地形図の見方」では校区を対象にした大縮尺の地形図を活用しましょう。



「地形図の見方」では、特に身近な学校や生徒の自宅を含む校区の地形図を活用することで、地域の地理的事象への関心を高めることができます。

(2) 生徒による距離換算の問題づくりを行いましょう。

単元の指導計画の中に距離換算の問題づくりを位置付けましょう。事前に校舎の屋上などから周辺の景観を確認することができれば、求める距離の想定も可能となります。生徒が考えた距離換算の問題づくりを行うことが工夫改善のポイントです。

地理的分野 4

資料の活用では、複数の資料の比較や関連付けを重視しましょう。

1 問題の概要

4	(1) 統計資料を活用し、別の情報を見つけるために考察することができる。	正答率45.5%
4	(3) 統計資料を使って、複数の県の共通点を読み取ることができる。	正答率40.6%
5	(1) 複数資料を活用し、資源の産出地と産業の関係を把握することができる。	正答率54.5%

2 正答率が低い要因

- (1) 資料中の項目について、単位などをていねいに読み取っていないことが考えられます。
- (2) 資料で複数の項目の意味や関係を比較したり、関連付ける力が不十分と考えられます。

3 指導法改善のヒント

- (1) 資料中の項目や単位についての読み取りは確実に行わせましょう。
単一の資料では各項目の単位、複数の資料では共通点や変化に視点をあてさせましょう。また、読み取ったことは、ノートにまとめるなどの学習活動を工夫しましょう。
- (2) 課題追究の成果を表やグラフ、統計などの資料にまとめる作業を大切にしましょう。
資料活用能力育成のポイントは、様々な資料を活用しテーマに沿った新たな資料を作成させることです。課題追究のまとめの段階で、資料づくりに取り組む機会を与えましょう。

歴史的分野 1

資料の活用を通して、具体的に歴史的事象をとらえさせましょう。

1 問題の概要

6	(4) 資料から藤原氏の摂関政治について、読み取ることができる。	正答率50.9%
7	(1) 資料から、古代の文化の特色を考察することができる。	正答率39.8%

2 正答率が低い要因

- (1) 平安時代に行われた藤原氏の政治の特色である摂関政治について、年表と系図の資料を関連付けて読み取っていないと考えられます。
- (2) 奈良時代から平安時代の文化の国際化から国風化への移り変わりを、代表的な事例（文化財）を中心にとらえていないと考えられます。誤答傾向からは、武士中心の文化と混同している生徒が約5割みられます。

3 指導法改善のヒント

- (1) 年表や具体的な資料を提示し、歴史的事象と関連付けながら学習を進めさせましょう。
個々の事象を比較したり、関連づけたりしながら学習を進めさせることが必要です。その際、日常的に年表で確認させたり、具体的な資料提示で事象に対する興味・関心を高めることも大切です。
- (2) 文化は時代背景や社会的背景とのかかわりを大切にして指導しましょう。
文化の特色については、代表的な資料（文化遺産等）を提示しながら、「どんな時代か」「どんな人たちが活躍したか」など、時代背景や社会的背景と常に関連付けて指導しましょう。

歴史的分野 2

個々の歴史的事象の関係を整理して、歴史の流れに位置付けましょう。

1 問題の概要

8	(1) 元寇とその前後の国内の動き、対外関係について理解している。	正答率45.4%
8	(2) 応仁の乱後の社会の変動について、理解している。	正答率50.9%
8	(3) 資料から、中世社会の特色について読み取ることができる。	正答率44.9%
10	(4) 鎌倉時代の文化について、理解している。	正答率31.3%

2 正答率が低い要因

- (1) 東アジア世界と日本との主なかかわりについてとらえていません。元寇による日本への影響

(徳政令→鎌倉幕府の滅亡＝建武の新政) についての理解が不十分と考えられます。

- (2) 応仁の乱の後の下剋上や戦国大名の登場という流れを、一連の大きな社会的変動としてとらえる力が不足しています。歴史的事象について、相互の関係の把握が不十分であると考えられます。
- (3) 「御成敗式目」の内容を読み取っていないため、武家社会の基礎となった鎌倉時代初期の法令であるという位置付けができていないと考えられます。
- (4) 地名と時代を混同して理解し、奈良市は奈良時代のことが中心であるという誤ったとらえのため、鎌倉時代の文化遺産もみられるという認識が身に付いていないと考えられます。

3 指導法改善のヒント

- (1) **世界の歴史（特に、東アジア）を背景に、日本の歴史をとらえさせましょう。**

古代から中世にかけての日本の歴史は、中国や朝鮮半島とのかかわりに着目させながら指導しましょう。歴史地図や年表を活用して王朝名を確認したり、年表中の日本と外国との関係にかかわる事項をマーキングさせるなど、我が国の歴史との関連を指導しましょう。

- (2) **時代ごとの学習のまとめを大切にし、時代観をもたせましょう。**

一つの時代の始まりから終わりまでの経過を、簡単な年表やイメージマップなどにまとめさせ、これを前の時代と比較するなど、共通点や相違点を見つける作業を通して時代の特色をとらえさせ、生徒の時代認識を育てましょう。

- (3) **歴史的事象同士のつながりをもたせた指導を重視しましょう。**

板書やワークシートによって、視覚的にも一つの出来事の原因や結果、影響等のつながりが分かるように、事象相互の関連を構造化してまとめさせることが大切です。

- (4) **文章資料は、ていねいに読み取りをさせましょう。**

資料のキーワードに着目させながら、文章を「読むこと」を大事にして指導しましょう。法令については、「なぜ出されたのか」「その後どのようなようになったか」などを、時代の動きと関連付けて考えさせましょう。

- (5) **歴史的事象を多面的・多角的にとらえさせ、生徒のつまずきに対応しましょう。**

事象を時系列だけで整理するのではなく、白地図等も活用して地理的な視点からもとらえさせるなど、生徒のつまずきを予想した指導や評価の計画を整えておきましょう。

歴史的分野3 「書くこと」を重視し、自分の言葉で意味や特色を書かせましょう。

1 問題の概要

9	(2) 江戸時代の参勤交代制度について、その存在理由を考察することができる	正答率54.5%
9	(3) ヨーロッパ人の来航と鉄砲の伝来による影響について理解している。	正答率22.6%

2 正答率が低い要因

- (1) 参勤交代の内容を現象面からのみとらえ、江戸幕府が行った大名統制のための重要な制度として位置付けていないと考えられます。
- (2) 鉄砲伝来による戦法の変化について、集団戦法などの新しい戦法の登場については具体的にとらえていないと考えられます。また、無答率が 26.7%であり、地理的分野の4(3)の問題と同様に、論述式の問題への抵抗感が強くみられます。

3 指導法改善のヒント

- (1) **「なぜ」「どうして」という疑問をもたせながら学習を展開させましょう。**

歴史的事象の内容の理解だけでなく、その背景や原因、ねらい、結果、影響など、一連の「歴史の流れ」を考えさせる活動を意図的に取り入れましょう。

- (2) **日常の学習指導で、「書くこと」を継続的に指導しましょう。**

ノートやワークシートに自分の考えを書く欄や学習のまとめのスペースを設け、資料から読み取ったことや授業のポイントなどを書く活動を随時取り入れ、「書くこと」への抵抗感を和らげることが大切です。

平安時代の特色をまとめてみよう

・政治や文化について、歴史ノートや教科書を基に、奈良時代と比較して自分の言葉でまとめてみましょう・・・

.....

.....

.....

.....

.....

平成18年度宮城県学習状況調査 中学校2年 社会

No	問題番号	領域	問題の内容	出題のねらい	
1	1	(1)	①世界の国々の構成と地域区分	地図上に示された大陸と大洋の名称を、理解している。	
2		(2)		緯度と経度を用いて、地球上の位置を表すことができる。	
3		(3)		地図上で、経度の差から時差を計算することができる。	
4		(4)		地図上で、おもな国々の位置を正しく読み取ることができる。	
5	2	(1)	②日本の国土と地域構成	東経135°の通っている位置にある県を理解している。	
6		(2)		都道府県の位置と名称の知識がある。	
7		(3)		日本の地域区分を理解し、設問の条件に一致する都道府県の位置と名称を考察することができる。	
8	3	(1)	③地形図の見方	地形図で等高線から傾斜の様子を読み取ることができる。	
9		(2)		地形図の縮尺の意味を理解し、実際の距離を計算することができる。	
10		(3)		地図記号を理解し、地形や土地利用の特徴から地形図の景観を読み取ることができる。	
11	4	(1)	④都道府県	統計資料を活用し、別の情報を見つけるために考察することができる。	
12		(2)		統計資料を読み取り、設定された課題への活用の是非を考察することができる。	
13		(3)		統計資料を使って、複数の県の共通点を読み取ることができる。	
		(4)			
14	5	(1)	⑤世界の国々	2つの資料を使って、資源の産出地と産業の関係を把握することができる。	
15		(2)		2つの資料から、事例国の貿易の特徴の変化を把握することができる。	
16	6	(1)	⑥古代までの日本	年表から、古代における人々の生活の変遷について考察することができる。	
17		(2)		古代における政治の展開の特色を、考察することができる。	
18		(3)		古代における政治の展開を理解している。	
19		(4)		資料から藤原氏の摂関政治について、読み取ることができる。	
20	7	(1)	⑥古代までの日本	資料から、古代の文化の特色を考察することができる。	
21		(2)		平安時代の代表的な文化財を理解している。	
22		(3)		⑦中世の日本	中世の文化の特徴について、理解している。
23	8	(1)	⑦中世の日本	元寇とその前後の国内の動き、対外関係について理解している。	
24		(2)		④中世の日本	応仁の乱後の社会の変動について、理解している。
25		(3)		資料から、中世社会の特色について読み取ることができる。	
26	9	(1)	⑧近世の日本	豊臣秀吉の兵農分離政策について理解している。	
27		(2)		江戸時代の参勤交代制度について、その存在理由を考察することができる。	
28		(3)		ヨーロッパ人の来航と鉄砲の伝来による影響について理解している。	
29		(4)		資料から江戸時代の鎖国政策の目的について、読み取ることができる。	
30	10	(1)	⑨地歴融合問題	平城京がならった唐の都長安の位置を、理解している。	
31		(2)		地図を使って、位置関係をとらえることができる。	
32		(3)		地図を使って、地域の特色や文化財の特徴を考察することができる。	
33		(4)		④中世の日本	鎌倉時代の文化について、理解している。

平成18年度宮城県学習状況調査 中学校2年 社会

No	期待正答率	4県正答率	県正答率	誤答率	無答率	市町村別正答率分布	主な観点	正答
1	80	69.6	68.7	30.9	0.4	50.0 ~ 76.2	知識理解	1
2	50	50.8	50.5	48.1	1.4	34.0 ~ 64.2	資料活用	4
3	60	71.2	71.0	28.0	1.0	50.0 ~ 83.6	資料活用	3
4	70	60.9	59.1	39.4	1.5	38.8 ~ 75.0	資料活用	3
5	70	58.3	56.7	25.3	18.0	25.9 ~ 75.0	知識理解	兵庫県
6	60	43.6	40.2	47.5	12.4	12.5 ~ 57.3	知識理解	岐阜県がめられているものだけが正答 
7	70	52.9	51.9	47.1	1.0	12.5 ~ 66.1	思考判断	1
8	70	68.6	68.6	30.4	1.0	43.6 ~ 83.0	資料活用	③または3
9	50	22.5	24.6	63.7	11.7	0.0 ~ 65.7	資料活用	1(km)
10	70	53.3	56.9	41.1	1.9	12.5 ~ 62.9	資料活用	1
11	70	43.7	45.5	52.6	1.9	30.6 ~ 53.9	思考判断	4
12	60	69.7	70.9	27.2	1.9	54.7 ~ 79.6	思考判断	2
13	60	38.5	40.6	26.1	33.3	12.5 ~ 47.6	資料活用	(A県とB県は) C県とD県よりも人口がととも多い。 C県とD県よりも人口が多く、大都市に近い。 C県とD県よりも人口密度が高い。 C県とD県よりも人口密度が高く、大都市に近い。
14	70	54.1	54.5	43.4	2.1	41.8 ~ 75.0	資料活用	1
15	70	63.3	66.0	31.3	2.7	37.5 ~ 78.4	資料活用	3
16	70	60.9	61.1	37.7	1.3	51.3 ~ 87.5	思考判断	③→①→②(この順番で完答)
17	60	78.2	79.3	20.0	0.7	70.9 ~ 88.5	思考判断	2
18	70	73.8	72.6	26.5	0.9	59.8 ~ 84.7	知識理解	1
19	70	52.7	50.9	47.8	1.4	12.5 ~ 57.7	資料活用	2
20	70	42.9	39.8	59.2	1.0	21.8 ~ 47.4	思考判断	4
21	70	78.0	80.6	18.5	0.9	72.9 ~ 100.0	知識理解	2
22	70	68.3	71.2	27.6	1.2	58.2 ~ 87.5	知識理解	1
23	70	49.3	45.4	52.8	1.8	31.4 ~ 61.2	知識理解	2
24	70	51.4	50.9	47.2	1.9	37.5 ~ 69.1	知識理解	4
25	60	43.8	44.9	52.8	2.4	21.8 ~ 50.6	資料活用	1
26	70	58.2	55.9	42.0	2.1	44.5 ~ 63.8	知識理解	1と4(順不同・完答)
27	60	55.3	54.5	43.6	1.9	32.8 ~ 75.0	思考判断	1
28	60	23.0	22.6	50.7	26.7	0.0 ~ 40.1	知識理解	(弓や刀で戦う戦い方から、)鉄砲を大量に使った戦い方になっていった。
29	60	84.6	86.8	11.4	1.9	73.2 ~ 92.3	資料活用	3
30	70	55.1	54.9	41.9	3.2	39.8 ~ 66.7	知識理解	②または2
31	70	65.3	68.0	28.4	3.6	58.8 ~ 87.5	資料活用	③または3
32	60	56.9	57.4	39.1	3.4	37.5 ~ 63.7	思考判断	4
33	60	29.6	31.3	65.4	3.3	23.4 ~ 62.5	知識理解	1